

業務ソフトウェア要件

1 全般的事項

(1) 全般的事項

- ① 図書館業務処理のためのパッケージソフトウェアは四年制大学図書館において十分な使用実績があること。
- ② 基本的に、データはシステム全体で一元管理され、オンラインで更新されること。また、更新されたデータは、必要な全ての業務サブシステムで即時に利用できること。
- ③ 業務画面より、一括してデータの作成、修正、削除を行う機能を有すること。
- ④ 業務を行う担当者ごとに、利用できる業務の権限を設定する機能を有すること。
- ⑤ システムで使用する文字は、すべて国立情報学研究所が多言語対応目録システムで使用する UCS 文字セットの仕様と同一であることとし、UTF-8 のデータ出力などで参照が可能であること。

(2) 操作性、ユーザインタフェース

- ① 同一の値の繰り返し入力を極力避けられるようにすること。同じ値を取ることが多い項目へのデフォルト値の設定を行えること。複本等類似したデータを作成する時、複写、流用ができること。
- ② 重要なメッセージ（警告、異常発生告知等）は、業務担当者が見落とさないように、配慮すること。
- ⑤ 別業務画面を同時に複数、並列表示できること。

(3) 帳票、ラベル出力及びファイル入出力

- ① 各種帳票データを標準的なデータ交換形式 (CSV、カンマ区切り等) でファイルに出力し、EXCEL 等で参照、利用可能であること。
- ② 定型帳票とは別に、任意の条件を指定してデータを抽出し、前項と同様に、ファイル出力できること。
- ③ 標準的なデータ交換形式 (CSV、カンマ区切り等) で作成されたテキストデータファイルを読み込みアップロードし、任意の条件指定により、データの新規登録入力及び修正入力が一括してできること。

(4) 国立情報学研究所との連携

- ① 国立情報学研究所の CAT/ILL システムに対応していること。
- ② NACSIS-CAT/ILL とローカルシステム側の処理との切替や連携が行えること。
- ③ JIS 第一、第二水準文字及び国立情報学研究所定義特殊文字 (EXC 文字) に対応していること。
- ④ 国立情報学研究所のデータを本システムで画面表示、帳票出力及びテキストファイル出力する場合に文字化けが生じないこと。
- ⑤ 国立情報学研究所が示す「CAT2020 クライアントのためのガイドライン」を満たしたものであること。

(5) コード体系

- ① 各種コードは、提示する体系及び新旧対応関係に基づき変換すること。また、運用中の追加も柔軟に行え、件数に制限がないこと。

- ② 資料貼付済みの資料 ID バーコード・ラベルは、現行のものを使用しラベルの貼替を必要としないこと。現行の資料 ID バーコードの規格は、CODE39 及び NW7 である。
- ③ コード入力可能な箇所は全て、コード参照ダイアログを呼び出して選択可能なコード一覧より選択入力及び直接入力する方法の双方に対応可能であること。
- ④ コード参照ダイアログより、コード及びその意味（デコード値）で検索可能なこと。

2 図書管理業務

図書の発注、受入、支払、資料 ID の付与及び目録登録を行う。

(1) 基本的要件

- ① 区分コード（予算、書店（発注先、納入者）等）の新規作成、修正、削除ができること。
- ② 既存のレコードを流用して発注及び受入処理が可能であること。発注データの書誌を作成できること。
- ③ 受入処理から処理が可能なこと。
- ④ ISBN、NCID、書名での書誌、所蔵、発注の重複チェック及び重複チェック結果の詳細参照が容易に行えること。
- ⑤ 複数の業務画面を切り替えることにより操作できること。

(2) 発注処理

- ① 利用者オンラインサービスの購入希望図書で申し込まれたデータを取り込んで発注レコード作成画面に引き継ぐこと。
- ② 発注作業に必要なデータ項目の入力、修正、削除ができること。
- ③ 発注データ入力時、発注区分（図書単行、図書継続、雑誌等）毎に各項目に任意のデフォルト値を設定できること。
- ④ 既存の発注データを流用して新規発注データを作成できること。
- ⑤ 入手不可（絶版、品切れ等）や発注取消等（以下「事故」という）が生じた場合は、事故内容（種別）と発生日時を記録できること。また、発注額の修正ができること。
- ⑥ 和洋区分、受入区分、資産（備品消耗品）区分、書店、予算部署、及び発注レコード作成日の論理演算による条件指定で、次の帳票及びファイルが出力できること。
 - ア 発注リスト/発注票
 - イ 継続図書リスト
 - ウ 発注不能リスト事故リスト
- ⑦ 受入後に所蔵に反映する各種値（資料種別、所在、受入区分、貸出区分）を所蔵の種別ごとに予めデフォルト値として設定できること。
- ⑧ オリジナル発注の場合、自動的に書誌登録画面に遷移しオリジナル書誌データ作成がおこなえること。
- ⑨ 発注番号を自動付与して、発注データの管理が行えること。
- ⑩ 発注時に指定した納入予定日から未着リストを出力できること。リストは、単行物と継続物を選択して出力できること。
- ⑫ 割引率を任意に変更できる機能を有すること。
- ⑬ 複本発注は、本学図書館の目録の書誌を流用できる機能を有すること。

(3) 受入処理

- ④ 受入作業に必要なデータ項目の入力、修正、削除ができること。
 - ⑤ 目録登録が先行して行われた場合も、受入データを作成できること。
 - ⑥ 受入区分が「寄贈」であるものについては、寄贈者名を記録できること。また、寄贈者名は、OPAC に反映しない設定ができること。
 - ⑦ 和洋区分、資産（備品消耗品）区分、書店、予算部署、及び発注データ作成日、発注日の論理演算による条件指定で、未着リストの帳票及びファイルが出力できること。
 - ⑩ 発注日の変更が可能なこと。
- (4) 支払処理
- ① 支払明細書を出力できること。
 - ② 支払作業に必要なデータ項目の入力、修正、削除ができること。
- (5) 物品管理
- 図書原簿を出力できること。図書原簿は受入日、管理区分、資料形態区分、受入区分ごとの出力を可能とすること。
- (6) 統計処理
- 集計処理を行い、結果を帳票及びファイルに出力できること。

3 目録管理業務

NACSIS-CAT に接続し、書誌登録及び所蔵登録を行うと共に、ダウンロードしたデータにより本学蔵書目録データベースを構築する。併せて、これら一連の業務に伴う各種帳票出力、統計処理等を行う。

(1) 目録登録の基本的要件

- ① NACSIS-CAT 及び本学蔵書目録データベース（以下、ローカル DB）に対して、CAT のデータをシステムに取込みできること。
- ② ローカル DB の様式は、書誌データ、所蔵データとも、NACSIS-CAT 総合目録データベースのフィールド定義に対応していると判断されること。NACSIS-CAT フィールドに追加、修正等があった場合に、対処可能であること。また、本学固有の書誌フィールドを随時追加し管理可能であること。
- ⑤ 入力処理中のキャンセルができること。
- ⑥ ISBN 検索時には、データベース上に登録されている実データ値にかかわらず、登録件数に関らず、検索キーとして 10 桁と 13 桁どちらでも検索が可能であること。

(2) 書誌・所蔵の登録

- ① NACSIS-CAT に接続して書誌登録及び所蔵登録を行い、取込めること
- ② NACSIS-CAT の書誌レコードから、全てのフィールドをダウンロードできること。
- ③ CATP プロトコルを使用し、図書書誌データを NACSIS-CAT から一括ダウンロードができること。また、図書及び雑誌所蔵データを一括アップロードできること。
- ④ NACSIS-CAT の書誌 ID により、書誌レコードダウンロードの重複をチェックすること。はじめてダウンロードする場合は、ローカル DB に新規に登録されること。重複する場合は上書可否、等が選択できること。
- ⑤ NACSIS-CAT によらない、ローカル DB 独自の書誌及び所蔵情報登録ができること。その際、ローカル DB 内書誌レコードの流用入力、NACSIS-CAT の書誌レコードを流用した書誌レコードの新

規作成も可能であること。

- ⑥ ローカル DB に取り込まれたデータにインデックスが作成し、検索が出来ること。
- ⑩ 書誌、所蔵それぞれのデータについて、OPAC に反映しない業務用のコメントを書き込める項目を複数有すること。
- ⑪ ローカル DB に取り込まれた書誌、所蔵それぞれのデータについて、公開・非公開の検索と状態の変更が一括でできること。
- ⑫ シラバス指定図書について、指定した教員及び教科の入力ができ、OPAC にできること。

(3) 書誌・所蔵の自動登録

- ① NACSIS-CAT に、自動登録ができること。書誌及び受入情報等を元に作成された CSV 形式等のアップロードファイルにより、国立情報学研究所へ所蔵情報をアップロードするとともにローカル DB に登録できること。
- ② ローカルに登録された所蔵情報を元に国立情報学研究所の所蔵情報を一括で追加・修正・削除する機能（一括修正処理）を有すること。
- ③ アップロードファイルは追加・修正・削除可能であること。
- ④ NACSIS-CAT に自動登録を行い、登録できなかったものについてはエラー結果を出力するとともに、処理単位を最後まで実行すること。

(4) 書誌・所蔵の修正

- ① NACSIS-CAT 及びローカル DB において、書誌及び所蔵情報の修正、削除ができること。このとき、書誌のみ、所蔵のみでも修正・削除が可能であること。資料 ID、書誌番号、NCID、請求記号等でも呼び出し可能であること。
- ② リスト出力
 - ア 整理済図書リストを作成し、帳票及びファイルで出力できること。
 - イ 必要に応じた任意の形式のリストを作成するために、コード等で範囲指定又は検索を行い、帳票及びファイルで出力できること。

(5) その他

- ① 資料区分、形態区分、配置区分、分類記号等のテーブルのメンテナンス（追加変更等）ができること。
- ② 書誌情報及び所蔵情報の入力及び修正ごとに、レコード作成日付、最新のレコード更新日付を自動付与すること。
- ③ 書誌レコード及び所蔵レコードを、OPAC で非公開とするか否か指定できること。

4 雑誌管理業務

NACSIS-CAT を利用し、雑誌に関して、契約発注からローカル目録として取り込むまでの一連の業務、各種帳票・ファイル出力、統計処理等を行う。

なお、寄贈雑誌の受入においては、支払処理を除いて購入雑誌の場合と同様の処理を行う。

(1) 発注・契約処理

契約データの入力及び目録・リスト類を出力して発注作業を行う。

- ① 新規購入雑誌について、NACSIS-CAT から該当書誌データを取り込めること。
- ③ 見積合わせ、予約（仮発注）、発注、契約等に必要な各種帳票及びファイルの出力が行えること。

- ア 購入予定リスト (全タイトル)
 - イ 予約 (仮発注) リスト (各業者別)
- ④ 次の各項目を任意に組合せ指定して、購入雑誌リストが作成できること。
- ア 購入区分 …… 「新規」、「中止」、「継続」、「中止予定」
 - イ 支払区分 …… 「前金」、「後金」
 - ウ 和洋区分
- (2) 受入 (チェックイン) 処理
- 新着雑誌の受入処理 (チェックイン) 作業を行う。
- ③ 固有の標題を持つ号については巻号の他にその固有の標題も記録できること。
 - ④ 受入情報を元に、OPAC の所蔵表示及び NACSIS-CAT の所蔵表示を任意に更新することが可能なこと。
 - ⑦ 単価 0 円の入力も可能であること。
 - ⑧ 受付日の範囲及び受入区分 (購入、寄贈等)、支払区分、予算部署、予算コード等を指定して、受付雑誌リストの出力が可能であること。
 - ⑨ 増刊号、インデックス誌、合併号など予定巻号以外の受付を特別な操作なしに、自由に行なうことができること。
 - ⑩ 年度範囲を指定して、古い年度の受付データを一括削除又は削除状態にできること。
 - ⑫ 巻号単位に資料 ID を登録し、貸出処理が行えること。
 - ⑬ 購入及び寄贈雑誌の受入処理が行えること。
 - ⑭ 受入雑誌の一覧を出力できること。
 - ⑮ 雑誌に印刷されている ISSN バーコードで読み込み書誌の同定が行えること。
 - ⑰ 新規購入及び購入中止雑誌のローカル DB の登録、修正、削除ができること。
 - ⑱ 受入画面から該当データの入力画面を呼び出せること。
 - ⑲ 外国雑誌の誌名変遷の処理が行えること。
- (3) 欠号処理
- 欠号、未着を発見し、請求業務を行う。
- ① 受付処理中に欠号、未着を管理できること。なお、到着したものと同様に価格のデフォルト値を埋め込むこと。
 - ② 書店別に年度又は日付を範囲指定して、欠号未着リストが出力できること。欠号未着リストには、次に該当するものが全て表示されること。
 - ア 欠号があるもの。
 - イ 初号から全号未着のもの。
- (4) 支払い及び精算処理
- 図書の購入冊数や金額を集計し、それらに関わる支払い集計作業を行う。
- ① 前金については、一括支払い処理ができること。
 - ③ 前金雑誌について、受付日範囲、契約年度、予算部署、書店等を指定して、受入状況リストが帳票及びファイルで出力可能であること。
 - ④ 年度末に前金雑誌について、精算処理を行い未着がある場合は、戻入明細及び納入明細リストが帳票及びファイルで出力可能であること。
 - ⑤ 精算済みの巻号が後から到着した場合は、後払い資料として処理ができること。

(5) 製本処理

未製本雑誌の合冊製本を行う。「受入処理」と同様に雑誌を検索し、次の処理を行えること。

- ① 資料データなどを指定して、製本発注データを作成できること。製本発注データには、予算部署、発注日、業者、製本単位等が入力できること。
- ② 資料データがない場合も、製本発注データの作成が可能であること。
- ④ 業者、発注日、予算部署等を指定して、製本発注番号順及び誌名順で、製本発注明細書が帳票及びファイル出力できること。
- ⑤ 製本発注データに基づき製本（備品）一括登録（資料 ID の付与）を行い、次の帳票及びファイルを出力すること。

ア 受入明細

- ⑥ 製本が不要な雑誌についても、直接入力及び受付データを参照して、備品登録（資料 ID の付与）及び受入明細と図書原簿の作成が可能であること。
- ⑦ 製本受入データが、雑誌所蔵データに自動的に反映されること。
- ⑧ 製本中のカレント受入データは OPAC 上では、「製本中」である旨表示されること。
- ⑨ 製本登録が終了した時点で、OPAC 画面には配架場所を表示すること。
- ⑩ 雑誌受入情報を流用して製本発注情報を作成できること。

(6) 目録処理

NACSIS-CAT への雑誌目録所在情報の登録と、ローカル雑誌蔵書目録データベースの作成作業を行う。

- ① 基本的要件と書誌・所蔵の登録・修正は、目録管理業務と同様であること。
- ② 雑誌の書誌で変遷誌名が管理できること。

(7) 統計処理

次の項目と区分について、数量集計を行い、ファイル及びリスト出力できること。

- ① 所蔵タイトル点数〔和洋別、受入区分別、言語別〕
- ② 所蔵雑誌点数〔和洋別、予算部署別、受入区分別（購入、寄贈など）、言語別〕
- ③ 継続雑誌点数〔和洋別、資料区分別、予算部署別、受入区分別（購入、寄贈など）、支払区分別（前金、後金）、年度別、言語別〕
- ④ 中止雑誌点数〔和洋別、資料区分別、予算部署別、受入区分別、支払区分別、年度別、言語別、国別〕
- ⑤ 製本登録冊数〔和洋別、資料区分別、予算部署別、年度別〕

5 予算管理

図書管理、雑誌管理の各業務での支払額をもとに、統一的な予算管理を行う。

- (1) 予算データ（金額）の入力、修正、削除ができること。
- (2) 発注額、納入額、発注残額、執行済額と冊数、及び予算残額の照会ができること。また、会計年度を指定して購入費執行状況表を、帳票及びファイルで出力できること。

6 蔵書所在管理

- (1) 図書及び雑誌（未製本雑誌も含む）の所在変更処理が、オンライン及び一括処理としてできること。また、変更後のオンライン照会が可能であること。

7 ILL 業務

NACSIS-ILL に接続し、図書館単位で、図書館間の文献複写、図書貸借の依頼・受付、各種資料の作成等の業務を行う。

- (1) ILL 業務は、依頼及び受付内容が所定の内容で出力できること。
- (2) 図書館（参加組織 ID）別に文献複写料金の集計ができること。
- (3) NACSIS-ILL のレコードから、全てのフィールドをダウンロードできること。
- (5) Web ブラウザを利用し、学内利用者から直接依頼を受付ける機能を有すること。
- (6) NACSIS 業務停止時間中も、依頼データの作成及び受付データの処理が可能であること。
- (9) NACSIS-ILL への依頼時に候補館を依頼画面上で変更できること。
- (10) NII の ILL 文献複写等料金相殺サービスに対応していること。
- (13) 受付データをもとに送付先の宛名、明細書が印刷できること。

8 閲覧管理業務

資料の貸出、返却、予約、利用者管理、資料利用状況等の問い合わせ、督促、統計処理等の作業を行う。

(1) 全般的事項

- ① 現行システムのデータ（利用者、貸出状況等）を全て移行し、継続して業務が行えること。
- ② 貸出・返却画面の切替をファンクションキー等での 1 回の操作で行うことができること。画面の切替は、バーコードリーダーを利用し、特定のバーコードを読み取ることで切替ができること。
- ③ 全ての処理において、資料 ID 及び利用者 ID が、バーコードリーダー及びキーボードのどちらからでも入力できること。
- ④ バックアップ等のシステム保守作業は、カウンタ業務に支障が無い方法で行われること。
- ⑤ 業務サーバが停止した場合でも、貸出・返却処理をオフラインでできること。
- ⑥ Web ブラウザ等を利用し、利用者が直接、図書の予約及び利用状況の照会ができる機能を有すること。

(2) 利用者登録及び管理

- ① 教職員、学生等総数約 1,000 人以上の利用者データが登録できること。
- ② 利用者データ管理画面を操作可能なログインユーザ（担当者）を設定できること。設定されていないユーザ（担当者）は、利用者データ管理画面が表示できないなど制限を設けられること。
- ③ 利用者データには、以下の区分・項目を持つこと。
- ④ 利用者 ID 身分、氏名、氏名ヨミ、所属、所属館区分、有効期限、権限、学籍番号、学年、貸出禁止フラグ、備考注釈、現住所（電話番号、郵便番号、住所、備考）、帰省先住所（電話番号、郵便番号、住所、備考）、メールアドレス
- ⑤ 利用者データの一括及び個別登録が行えること。
- ⑥ 利用者 ID をキーとして一括上書が行えること。
- ⑦ 利用者データは、以下の任意の項目で検索できること。
利用者 ID、氏名、氏名ヨミ
- ⑧ 利用者一覧を、帳票及びテキストファイルに出力できること。

- ⑨ 有効期限切れの利用者データを身分別に抽出して一括削除ができること。ただし、貸出データのある利用者データは削除対象にしない措置がとれること。
 - ⑩ パスワードの再発行が可能であること。
 - ⑪ 利用者カード紛失により再発行を行った際、登録済みの利用者データをそのまま利用し、利用者 ID の再付番処理が可能であること。その際、旧利用者 ID を保持できること。
 - ⑫ 利用者 ID バーコードを指定ラベル (A4 サイズ 36 面×20 シート) に出力できること。
 - ⑬ 利用者データの修正、削除、追加を行う機能を有すること。
- (3) 貸出、返却処理
- ① 貸出形態として、「通常」、「長期」、「特別 (研究室貸出)」を設定、選択できること。
 - ② 下記の区分と種類別に、貸出期間等の設定や修正ができること。
 - ア 貸出区分 [所蔵館区分、配置区分、資料区分 (図書、雑誌、視聴覚資料)、利用者身分]
 - イ 貸出種類 [通常 (授業期)、長期 (休業期)、特別 (研究室貸出)]
 - ウ 設定内容 [貸出冊数、貸出日数、更新貸出日数、更新可能回数、返却期日]
 - ③ 同一図書館 (室) の貸出、返却処理が、複数の業務パソコンで並行してできること。
 - ④ 返却期日がカレンダーや貸出し条件を元に自動設定されていること。また、手動でも設定できること。
 - ⑤ 返却期日が休館日と重なる場合は、自動的に一番近い次の開館日まで延長すること。
 - ⑥ 貸出中の図書毎に返却期限の延長 (更新) ができること。
 - ⑦ 貸出処理 (更新を含む) において利用者 ID を入力した際、当該利用者に関する以下の情報が表示されること。
 - ア 貸出冊数
 - イ 貸出中の各図書の ID、請求記号、タイトル、貸出日、返却期限
 - ウ ペナルティの有無 (貸出停止)
 - エ 利用証の有効期限
 - オ 利用者データの備考注釈欄
 - カ 貸出可能 (取置状態) の予約資料がある。
 - キ 受渡可能 (到着済み) の相互貸借依頼現物、文献複写依頼複写物がある。
 - ⑧ 貸出処理 (更新を含む) 中に、当該利用者又は資料が以下のいずれかに該当する場合には、警告音と共にメッセージを表示し、貸出を行うかどうか担当職員の判断を求めること。
 - ア 当該利用者が貸出中の資料に延滞しているものがある。
 - イ 当該利用者に貸出停止ペナルティが課せられている。
 - ウ 当該利用者の利用証の有効期限を過ぎている。
 - エ 貸出禁止資料である。
 - オ 貸出冊数限度に達している。
 - カ 更新回数限度に達している。
 - キ 当該資料に対して、別の利用者の予約が入っている。
 - ク 当該資料が別の利用者に貸出中である。
 - ⑨ 返却処理中に、当該資料が以下のいずれかに該当する場合には、警告音と共にメッセージを表示し、担当職員の注意を促すこと。
 - ア 延滞している。

イ 別の利用者の予約が入っている。

- ⑩ 貸出時／貸出後にメモを登録できること。メモが存在する資料の返却時はメッセージを表示し、メモ内容が確認できること。
- ⑪ 返却処理は、資料 ID のみで可能なこと。
- ⑫ 紛失資料及び除籍資料を貸出及び返却した際には、警告音とともにメッセージを画面に表示できるようにすること。
- ⑬ 貸出返却時の履歴データは、削除の指示があるまで、無制限に蓄積されること。
- ⑭ ブックポスト返却が直前の開館日に設定できること。
- ⑮ 貸出中の資料の紛失処理を貸出画面から行えること。
- ⑯ 利用者への連絡を貸出画面のメモ欄から確認できること。
- ⑰ 利用者名を検索して貸出が出来る機能を有すること。
- ⑱ 貸出、返却資料の配架場所が、貸出画面、返却画面に表示されること。
- ⑲ 付録 (DVD 等) 付き図書の貸出処理において、付録を添付しての貸出か否かを登録でき、返却画面にも情報が表示されること。

(4) 予約処理

- ① 貸出中資料を利用者 ID で予約する機能を有すること。
- ② 所蔵単位及び書誌単位での予約処理が可能なこと。
- ④ 予約申込み者の優先順位を変更可能であること。その際、1 番目の予約者が既に受取可能状態となっている場合は 1 番目の優先順位を変更できないように制御されていること。
- ⑤ 利用者 ID 及び利用者名から予約解除ができること。
- ⑥ 個別に、任意の予約及び保留の強制解除 (取消) ができること。
- ⑦ OPAC の検索結果画面から、利用者が貸出中の資料に対して書誌単位の予約ができること。また、予約がかかっている資料にも予約がかけられること。その際、予約前に待ち順番を表示すること。利用者が予約を行う際、認証によるセキュリティチェックを行うこと。
- ⑧ 予約図書が返却された場合は、次の処理を行うこと。
 - ア 返却処理画面で、予約図書である旨を画面に表示すること。
- ⑨ 予約資料が返却されたら、予約棚票をプリントアウトすること。
- ⑩ 予約中の資料を検索し、画面に一覧表示できること。また、検索結果をテキストファイルに出力できること。

(5) 照会処理

- ① 資料 ID 及び請求記号による貸出、予約、保留等の状況が照会できること。
- ② 利用者 ID、利用者名により、利用者別貸出状況・予約状況が照会できること。
- ③ Web ブラウザ等で、利用者自身が貸出状況、予約状況、メールアドレスを照会できること。

(6) 督促、ペナルティ処理

- ① 延滞資料について、以下の項目を指定して、督促リスト及び督促状が出力できること。
返却期限、督促回数、利用者区分、所属区分、利用者 ID、有効期限、予約の有無、配架場所、貸出の種類
- ② 督促状のプリンタ出力は別に指定するサイズ of 用紙 (B5 又は A5 を想定) を使用し、以下の項目を印字すること。また、督促状の印字項目・督促文を任意に変更できること。
利用者名、利用者 ID、督促文、延滞資料 ID 一覧

- ③ 督促者リスト及び督促資料リストは、画面表示が可能であること。
- ④ 督促リストは分類順及び利用者 ID 順を選択し、出力可能であること。
- ⑤ 利用者の身分、延滞した資料の所蔵館及び延滞日数と冊数により、ペナルティ（貸出停止）が設定できること。
- ⑥ ペナルティの解除が行えること。

(7) 利用統計処理

- ① 日別、月別、及び年別の資料利用統計を、利用者身分別、資料区分（図書、雑誌、視聴覚資料）別、分類別に集計して、帳票及びテキストファイルに出力できること。
- ② 貸出人数・冊数、返却冊数、予約件数について、年度毎、月毎、日毎でそれぞれの利用者区分毎に帳票及びテキストファイルに出力できること。

9 OPAC

本学内において、任意の Web ブラウザで本学の蔵書情報の提供を行う。

(1) 基本的要件

- ① 各業務システムでのデータ追加や更新（所蔵、雑誌受付、製本、貸出等）が、遅滞なく OPAC 情報に反映されること。
- ② インターネットに接続できる環境下にあるパソコンで、OS に依存することなく Web ブラウザを使用して検索できること。
- ③ 検索や表示が素早く行われ、最大アクセス時でもパフォーマンスの低下を来さないこと。
- ④ 操作にあたってのオンラインガイド、ヘルプ機能及び情報が充実していること。
- ⑤ 検索画面及びオンラインガイドは日本語版表示のほか英語版表示の機能を有すること。
- ⑥ 予約、購入、ILL 等の依頼は認証を行い、権限のある利用者のみがサービスを受けられること。
- ⑦ 前述の予約、購入、ILL 等の依頼は権限のあるユーザのみが行えること。
- ⑨ 利用者端末は OPAC 以外の図書館システムに入ることができなくすること。
- ⑩ 操作性の優れた GUI による検索ができること。

(2) 検索対象

- ① 検索対象として、本学所蔵の図書、逐次刊行物を指定できること。
- ② 資料については、個別の指定により、検索を制限できること。
- ③ 書誌情報及び所蔵情報に公開可否の設定ができ、公開否とするものは OPAC の検索対象としない機能を有すること。

(3) 検索項目

- ① NACSIS-CAT と同等（内容注記も含めて）のアクセスポイントをもつこと。なお、ローカル DB においては、ローカル書誌 ID、ISBN、NCID 等のすべての書誌データ項目で検索が行え、資料 ID、請求記号、配架場所、資料形態、資料 ID、登録番号の所蔵データ項目での検索もできること。

(4) 検索インデックス

- ① EUC、S-JIS、UCS のいずれの文字コードで入力されても自動的に本システムで使用するコードに変換して検索し、結果を表示する機能を有すること。
- ② 国立情報学研究所 EXC 文字については、対応する ASCII 文字を検索キーとして使用できること。
- ③ ギリシア文字、キリル文字等の検索に対応すること。

- ④ 大文字/小文字（アルファベット、拗音、促音）、全角/半角のそれぞれを区別しないこと。
- ⑥ 検索キーとインデックスの整合性（とくに区切り記号等）がとられていること。
- ⑦ 現行システムのデータについてインデックスを作り直すこと。

(5) 検索機能

- ① 検索機能として、前方一致、部分一致及び完全一致を有すること。
- ② 検索キー及び検索結果集合どうしにおける論理演算（and、or、not）ができること。
- ④ 簡易検索画面と詳細検索画面を備えていること。
- ⑤ 本書名、副書名、内容細目など書名に関する包括的な検索（項目を指定せず、複数の項目を同時に検索）する機能を有すること。
- ⑥ フリーキーワードによる検索ができること。

(6) 検索結果表示

検索結果の表示方法は、4種類とする。なお、検索結果のダウンロードやプリントアウトができること。

① 簡略一覧表示

- ア 検索結果が複数の場合に、各書名（又は誌名）、著者名、シリーズ名を簡略に並べて表示し、任意の書誌を選択して詳細表示に移行できること。
- イ 検索結果の表示順の指定ができること。
- ウ 一覧表示が複数ページにわたる場合、任意のページが表示できること。

② 詳細表示

- ア 簡略一覧表示で選択した図書及び雑誌について、書誌情報の他、所蔵情報（所蔵館、配置区分、請求記号、資料 ID 等）を表示すること。
- イ 図書については、利用（貸出中、返却期限（一般貸出のみ表示）、予約、禁帯出等）に関する情報を表示すること。
- ウ 雑誌については、所蔵年次と巻次を表示し、受入状況表示に移行できること。

③ 受入状況表示（雑誌のみ）

- ア 雑誌の場合は、各号（製本済の場合は各冊）について、新着受入状況（受入日等）及び製本状況（製本中等）を表示し、一覧できること。また、図書と同様に、利用に関する情報も表示すること。

④ リンク表示

- ア 検索結果の詳細表示の中のシリーズ名、著者名、件名のリンクからそれぞれ同じシリーズ、同じ著者、同じ件名の資料の一覧を表示できること。

(7) その他

- ア 新規整理済み図書のリストを表示する機能を有すること。

10 利用者オンラインサービス

任意の Web ブラウザ及び電子メールを利用し、利用者オンラインサービスを提供する。

(1) 基本要件

- ① 登録内容の変更（利用者情報の変更、パスワードの変更等）については権限を持つ利用者が行えること
- ② 各サービスの利用にあたっては、利用者認証を行うシステムであること。

- ③ サービス画面は日本語版表示のほか英語版表示を有すること。
- (2) 貸出状況照会・貸出更新・予約
 - ① OPAC の検索結果の詳細表示に連動し、Web ブラウザを利用し、利用者自身の操作により予約できる機能を有すること。
 - ② Web ブラウザを利用し、利用者自身の操作により本人の借用状況を参照できる機能を有すること。

11 蔵書管理業務

(1) 蔵書点検

- ① 蔵書点検用ハンディターミナル等で蓄積した資料 ID のリストと所蔵データを照合する機能を有すること。
- ② 所在不明資料リストを配架場所別及び請求記号順に帳票及びテキストファイルで出力ができること。また、所在不明資料情報を所蔵データとして記録できること。
- ③ 所蔵データごとに紛失処理を行えること。
- ④ 所在不明資料のデータを一括して紛失処理できること。また、紛失処理日が登録できること。
- ⑤ 紛失資料が返却された時は紛失の解除ができること。
- ⑥ 所在ごとの蔵書点検が可能なこと。
- ⑦ NDC による類項目ごとの蔵書点検が可能なこと。
- ⑧ データを業務端末に転送するためのソフトウェアを備えること。
- ⑨ 返却未処理資料が読み込まれたときにはデータ照合時に返却処理できる機能を有すること。
- ⑩ 登録資料、返却未処理資料のリストが請求記号順に出力できること。
- ⑪ 紛失処理された目録データは、OPAC では検索不能とする一方、業務用では表示可能とすること。また紛失を解除すると OPAC に表示されること。

(2) 除籍処理

- ① 資料 ID 及び紛失処理日を指定して、除籍の記録（除籍処理日、除籍理由）ができること。また、連続してバーコードの読み込みを行った資料の一括除籍が可能なこと。
- ② 検収日及び除籍処理日の範囲を指定して、除籍リストが帳票及びファイル出力でき、冊数、価格も集計できること。
- ③ 除籍処理したものについて、OPAC で非表示にすること。また、資産統計に計上しないこと。
- ④ 所蔵データごとに除籍の処理が行えること。
- ⑤ 除籍処理された目録データは、OPAC では検索不能とする一方、業務用では表示可能とすること。また除籍を解除すると OPAC に表示されること。

(3) 蔵書データ一括処理

資料運用や組織等の変更に対応し、資料が有効に検索、利用できるために、蔵書データの保守や変更等を行う。

- ① 所蔵館区分、配置区分、請求記号、資料 ID、資料区分等により所蔵情報レコードを指定して、所蔵館区分、請求記号、資料区分等の一括変更ができること。
- ② 連続してバーコードの読み込みを行った資料の一括変更処理ができること。

(4) 蔵書統計処理

全蔵書目録データを対象に目録関係の各種統計等の処理と出力を行う。

下記の各統計とも基本的に受入日、資料 ID の各範囲及び配架場所区分を指定できるものとし、該当する冊数とタイトル数及びその合計値を出力する。冊数は資料 ID 単位で集計し、除却処理したものは計上しない。タイトル数は書誌番号単位で集計する。

- ① 受入区分別蔵書統計（所蔵区分ごと）
- ② 蔵書統計（NDC 分類ごと）